



いっぱい楽しんだよ、交流まつり

10月21日、市民参画センターにおいて「第2回市民ボランティア交流まつり」が開かれました。たくさんのグループが参加してくれた中で、今回は、障がい者が作ったり運営に参加している、ケーキ屋さん、パン屋さん、農作物やその加工品を作っている作業所を紹介したいと思います。

ゆいまある

どれも皆、食べてみたいと迷うくらいのおくさんのパン。屋時には大盛況でした。自分達の作ったパンを、楽しそうに売っている青年の笑顔がステキでした。



大石の里

野菜、ケーキ、パン、りんごジュースなど、様々手がけているなか、パウンドケーキとシフォンケーキを販売。シフォンケーキは午前で売り切れる好評ぶりでした。



ないすらいふ

すべての工程を障がい者が行うマフィンが5種類。その他のお菓子も袋詰めやシール貼りを丁寧にこなすとのこと。綺麗にラッピングされた10種類以上のお菓子に目移りしました。



ワークランド茜

ポリフェノールたっぷりの山ぶどうジュース。清水森ナンバ漬けやブルーベリージャム。じゃがいもやネギの新鮮な野菜など、どれも手間ひまかかっている真心商品でした。



ここで紹介した店や作業所では、障がい者がリハビリや訓練をかねて、社会復帰に向けてがんばっています。もし近くに、このような店や販売所があったら立ち寄ってみてください。彼らにとって、なによりの励ましになると思います。こねられ、丸められたパンのたねが、こんがりとおくらんでいくように、ボランティアの小さな芽もふくらんでくれたらうれしいです。

交流まつりに車椅子の女性が一人でやってきた。

ボランティア支援センターの誰もが、今日初めて彼女に会いました。彼女の気さくな人柄に会話もはずみ、車椅子を押す私たちも笑顔になった。

午前はスタッフで一番若い女子学生さんと一緒に舞台発表を見て過ごした。お昼はスタッフ達と、いっしょに「ゆいまある」のパンを2階の喫茶コーナーでにぎやかに頂く。午後は展示を見たり体験したりで、あっという間に終了時間の3時になってしまった。

施設で暮らす彼女にとって、日常とは少し違った楽しい時間を過ごすことができたのではと思う。帰りの車を見送った私たちに秋の日差しがあたたかかった。

皆さ～ん、知ってましたか？



青森県板金組合青年部会ボランティア活動青年部会津軽支部(19名)

☆ 石戸谷妙一さんに聞きました ☆

いつも多くの市民が利用する公衆トイレの屋根の葺き替えや修理をボランティアで行っています。平成12年からスタートして、今年で13回目になります。

この間、市内の児童公園トイレだけでも、20ヶ所以上関わったとのこと。

13年間も続けている事に心から感謝したいと思います。

1ヶ所のトイレは10人位で作業、年齢は20歳～45歳迄。

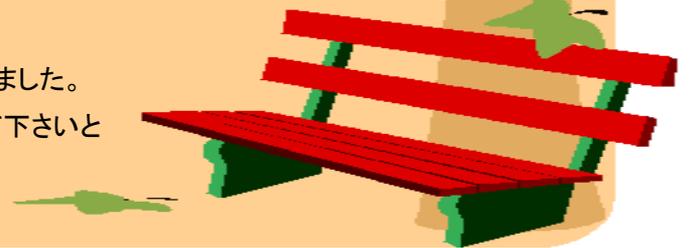
きっかけは、地域貢献と会員の技術の向上、会員同士の親睦、技術の継承等。

いずれも大変大事な事だと思いましたが、中でも技術の継承は、とても大事な事と思います。

又、今後への思いとしては、ボランティアを通して、一般の方に屋根の専門店である板金屋を、広く知ってもらいたいとの事でした。

青年部の方達の熱い思いが伝わって来る様な気がしました。

今後もし是非続けてもらいたいという気持ちと、頑張ってくださいと心から応援したいと思います。



豆知識



お正月といえば「おせち料理」。

この「おせち料理」の一つ一つには様々な願いが込められているのをご存知でしょうか。

海老…ひげが長く、腰が曲がっていることから
長寿を願って

数の子…たくさんの卵がまとまっている事から
子孫繁栄を願って

八つ頭…里芋の一品種で、八という字は末広がりで、
また、人の上に立つという意味

黒豆…「まめ」に生活ができるという願い

鯛…言わずと知れた「めでたい」

昆布…「喜ぶ」と掛けたもの

蓮根…穴から先を見通せるように

田作り…昔、田畑の肥料として使われていた小魚
を食べる事で、実りある一年を願う

地域によって多少の違いはあるようですが、来年の「おせち料理」は、一つ一つの意味をかみしめながらいただいてみましょう。



ほっと・ぼらんていあの予定

ゲスト:働きたい若者を様々な形で支援している
《青森県若者サポートステーションキャリアコンサルタント》のお二人

★1月19日(土) 森 岩樹さん

「く今は、はたらいていないけれども、はたらきたい、こんなことをしてみたい」と思った若い方たちの現状や働くまでのお話」

★3月16日(土) 吉町 友美さん

「コミュニケーション術について」

共に、場所:市民参画センター3F グループ活動室

時間:13:30～15:30

編集後記

6月からスタッフの一員となり、早いもので5ヶ月が経ちました。和やかな雰囲気の中先輩スタッフの方々に支えられながら、構成や執筆に携わっています。

色々なジャンルの話題を常に追い求めていきたいと思っており、また一人でも多くの仲間に出会えるのを楽しみにしています。まだまだ人手不足で、新しい風を運んで来てくれるスタッフを心待ちにしています。

どうぞ気軽な気持ちで立ち寄ってみてください。

新スタッフ:K&Y



<製作>市民ボランティアスタッフ<製作協力>弘前市ボランティア支援センター
〒036-8355 弘前市大字元寺町1-13 弘前市民参画センター2階
TEL:38-5595 FAX:36-1822
HP: <http://www.hi-it/~vsc>
情報紙についての意見・感想をお待ちしております。